

2006年暮らし向き調査結果

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行 23 か店の来店客（700 名）を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

《要 約》

①暮らし向き動向

1 年前（2005 年）と比べた現在の暮らし向きDI（※）は $\Delta 26.5$ で、1 年前（ $\Delta 24.3$ ）に比べ 2.2 ポイント低下している。また、今後（1 年間）の暮らし向きDIは $\Delta 28.9$ で現在よりもさらに 2.4 ポイント悪くなる予想となっている。

（※）DIとは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、「良くなった」+「やや良くなった」から（「悪くなった」+「やや悪くなった」）を差し引きした指数をいう（以下同様）。

②消費支出動向と増減理由等

現在の消費支出DIは 35.2 となり、1 年前と比べて 3.7 ポイント上昇した。年代別では、40 代のDI（55.5）が最も高くなっており、消費支出が増加した理由は「出費がかさなった」（77.3%）が最も多く、増加要因となった費目は「教育費」（33.6%）であった。

今後 1 年間の消費支出DIは、マイナスに転じ $\Delta 27.0$ となった。消費支出DIが最も低いのは 60 歳以上（ $\Delta 36.2$ ）。最も高いのは 40 代（ $\Delta 12.4$ ）であった。

③貯蓄目的

「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」が、前回同様高い水準となっている。

④今後の主な購入予定商品

上位から「国内旅行」（27.9%）、「プラズマ・液晶テレビ」（20.5%）、「婦人衣料」（19.7%）となった。今回調査で目立ったのは「プラズマ・液晶テレビ」が前回よりも 8.8 ポイント上昇し、前回の 7 位から 5 ランクアップした。

⑤消費行動DI

「同じ商品なら、少しでも安い店で買う」（66.4）が最も高い比率を占めた。「価格よりも、品質を重視して買う」（41.9）は前回より 3.8 ポイント低下し、過去 5 年間で最も少ない割合となった。

⑥サービス・レジャー等の支出

1 年前と比べた現在の支出DIは「補助教育費」（ $\Delta 1.1$ ）が最も高く、「外食費」（ $\Delta 10.6$ ）、「教養娯楽費」（ $\Delta 13.1$ ）の順になっている。

⑦買い物・レジャー等の支出

今後の買い物やレジャーの支出DIは $\Delta 21.5$ となり、前回より 1.3 ポイント上昇した。「減らす」理由としては、「世帯の収入が減った」（41.5%）が最も多い。前回よりも増えている項目は、「医療費・税の負担増」（11.2 ポイント増加）と「給与減額・失業などの先行き不安」（7.5 ポイント増加）などであった。

1. 暮らし向き動向

<現在>

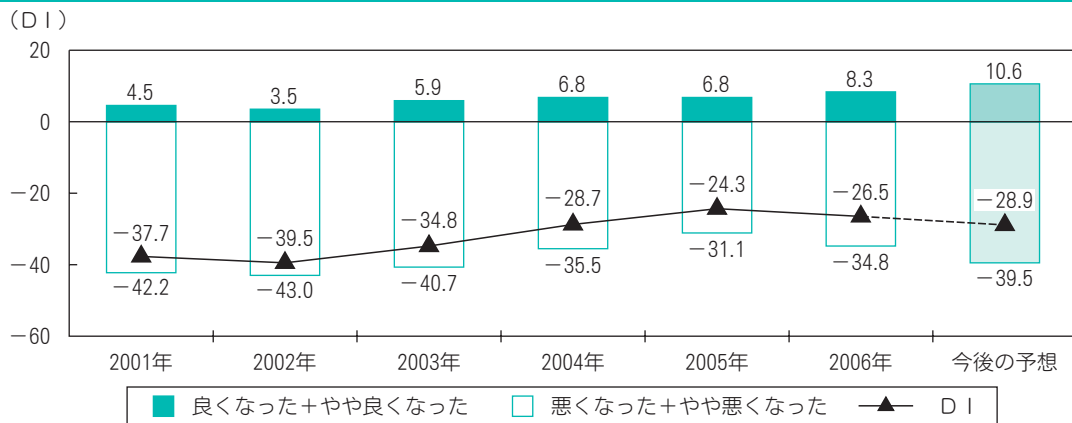
1年前（2005年）と比べた全体の暮らし向きを見ると、暮らし向きDIは△26.5となり、前回よりもDIが2.2ポイント低下し、暮らし向き感は悪くなっている。

年代別に見ると、29歳以下では、前回よりも暮らし向きDIは8.9ポイント上昇して、△10.5であった。

一方、暮らし向きDIのマイナス幅が最も大きいのが60歳以上で△33.1と前回よりも8.6ポイント低下した。次いで40代が△27.0となっている。

前回より暮らし向き感が悪くなったのは、30代と60歳以上で、そのほかの年代では暮らし向き感は良くなった。

現在の暮らし向きDI（1年前に比べ）



<今後1年間（2007年）>

今後1年間の暮らし向き予想としては、全体の暮らし向きDIが△28.9と現在よりもさらに2.4ポイント悪くなると予想している。

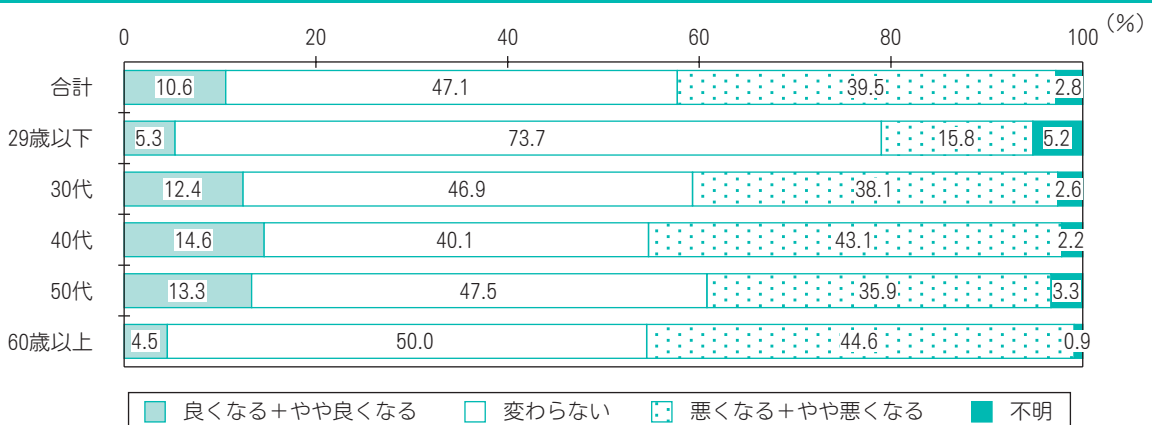
年代別に見ると、現在より良くなると答えたのは50代（2.2ポイント上昇）だけであった。

29歳以下は、今後の暮らし向き予想も現在と変わらないと答えた割合が7割を超えている。

現在よりDIが悪くなると答えたのは、60歳以上（7.0ポイント悪化）と、30代（4.5ポイント悪化）、40代（1.5ポイント悪化）であった。

今後の暮らし向き予想は、先行きに不透明感が残る結果となっており、前回の「今後の予想」と比較しても、すべての年代で暮らし向きDIが低下している。

今後1年の暮らし向きについて



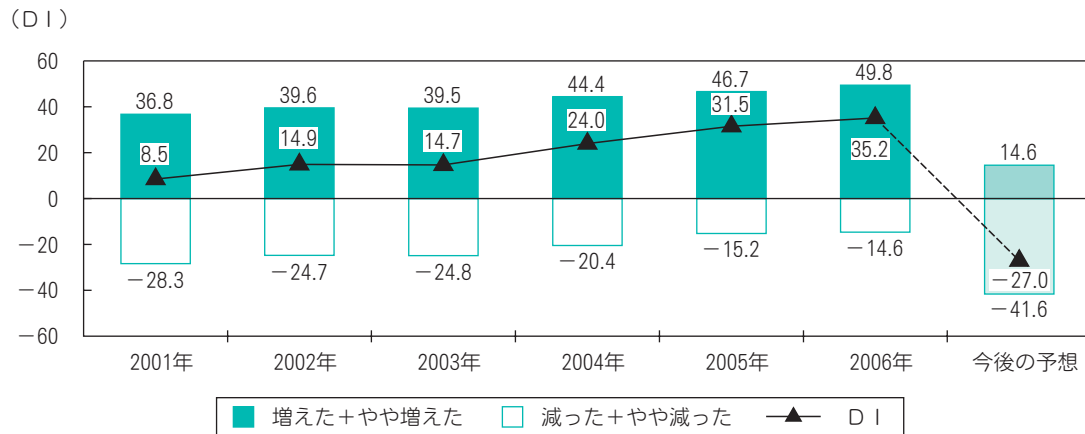
2. 消費支出動向

<現在>

1年前（2005年）と比べた全体の消費支出は、「増えた」と答えた人の割合が49.8%（前回より3.1ポイント上昇）で、「減った」が14.6%（同0.6ポイント低下）であった。消費支出DI（以下消費DIという）は35.2で前回より3.7ポイント上昇した。

年代別の消費DIは、29歳以下と30代で前回よりも低下し、その他の年代は上昇した。消費DIが高かったのは40代（55.5）で、次は30代（46.0）であった。一方、最も低いのは29歳以下（10.6）であった。

現在の消費支出DI（1年前に比べ）

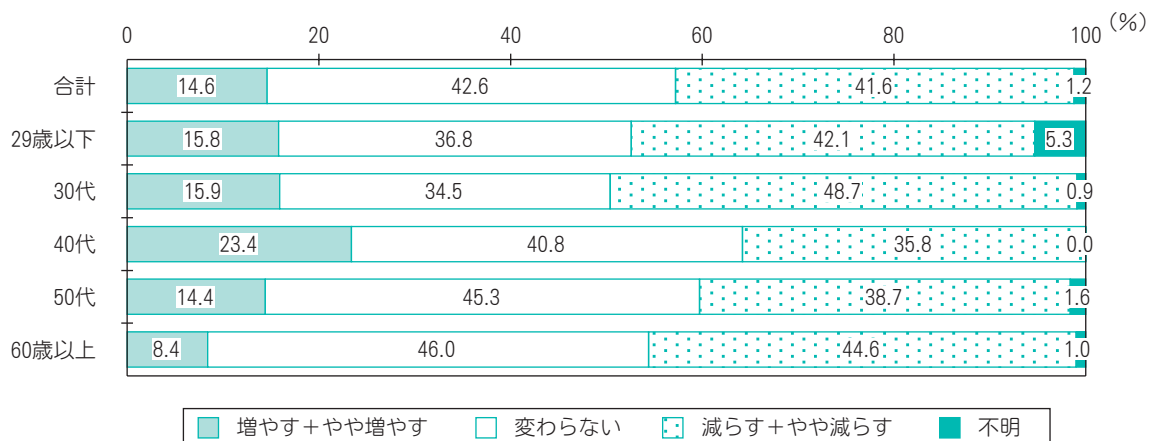


<今後1年間（2007年）>

今後1年間の消費DIの予想は、マイナスに転じて△27.0になっている。しかし、前回（△30.4）よりも、消費DIの値は3.4ポイント上昇しており、前回に続いてマイナス幅は小さくなった。

年代別では、60歳以上の消費DIが△36.2と最も低い。消費DIが最も高いのは、40代の△12.4で、前回よりも16.8ポイント上昇している。一方、DIが最も低下しているのは30代の△32.8で12.8ポイント低くなっている。

今後1年間の消費支出について



3. 消費支出の増減理由等

(1) 消費支出の増加理由および増加費目

1年前（2005年）と比べた消費支出が「増加した」と答えた348人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が77.3%で最も多かった。

「増加」の要因となった費目（複数回答）は「教育費」が33.6%と前回同様最も多かった。続いて「飲食料品」（25.9%）、「保健医療費」（25.0%）の順となった。前回二番目に多かった「交際費」は5.5ポイント低下した。

一方、「自動車関連」が4.4ポイント上昇した。

年代別に増加した費目を比べてみると、29歳以下は「飲食料品」（44.4%）が多かった。30代、40代、50代ではいずれも「教育費」の割合が最も多かったが、特に40代（62.1%）が突出していた。30代は「教育費」（37.5%）に続いて「住居費」「自動車関連」（ともに28.1%）が多かった。50代では「教育費」（37.3%）の次に「交際費」（32.5%）が多かった。

(2) 消費支出の減少理由および減少費目

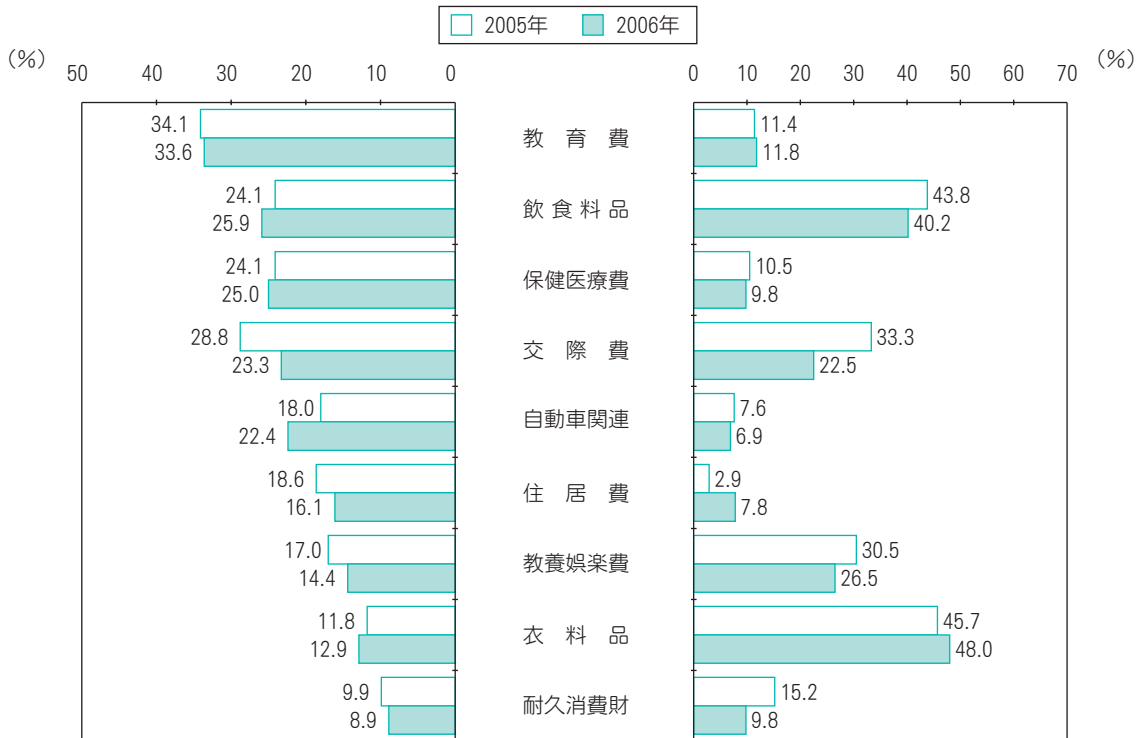
1年前（2005年）と比べた消費支出が「減少した」と答えた102人を対象に、その理由をたずねた結果、「収入が減少した」（41.2%）と「節約した」（40.2%）の2項目が前回同様多かった。

「減少」の要因となった費目（複数回答）は前回と同様「衣料品」が48.0%で最も多く、続いて「飲食料品」（40.2%）、「教養娯楽費」（26.5%）の順となった。「交際費」（22.5%）は、前回よりも10.8ポイント減り、大きく減少した。

年代別に最も減少した費目を比べてみると、29歳以下では「衣料品」と「交際費」が共に71.4%で多かった。30代は「飲食料品」が50.0%であった。40代は「飲食料品」と「衣料品」（ともに45.5%）、50代と60歳以上では「衣料品」（48.1%、48.6%）が多かった。

支出が増加した費目（複数回答）

支出が減少した費目（複数回答）



4. 貯蓄目的（複数回答）

<全体>

今後1年間の貯蓄額については「増やす」（30.8%）、「減らす」（16.7%）となり、貯蓄DIは14.1で前回よりも4.0ポイント低下した。

年代別に、今後1年間の貯蓄DIを比べると、29歳以下の貯蓄DIが最も高く63.1と、そのほかの年代と比較して2倍ほどの割合になった。次に高いのは、30代（31.8）、50代（20.4）であった。前回よりも貯蓄DIが上昇したのは、29歳以下と50代だけでそのほかの年代ではDIが低下した。

貯蓄の目的では、「老後の備え」（53.2%）が最も多かった。次には「病気や不時の災害への備え」（41.6%）、「教育資金」（27.6%）が続き、順番もその割合も前回とほとんど同じ傾向であった。

<年代別>

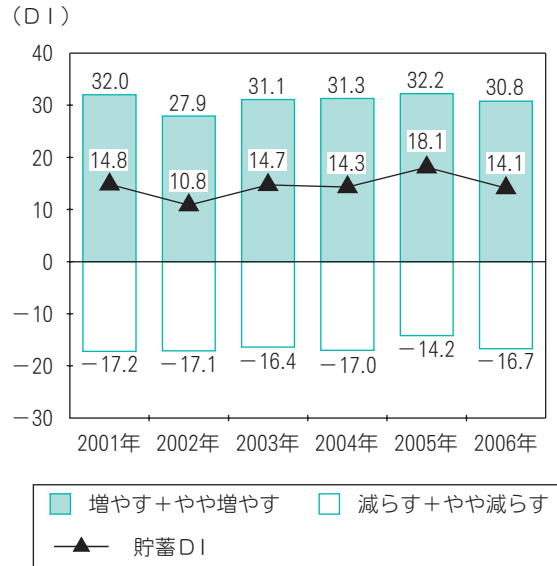
年代別に貯蓄目的を比べてみると、29歳以下、30代、40代では「教育資金」が最も多かった。しかし、第2位の項目は29歳以下と30代では「住宅資金」が多くなっており、40代では「老後の備え」となっていた。

前回の調査で40代の第2位は「病気や不時の災害への備え」であったのに、今回は「老後の備え」が6.9ポイント上昇しており、年金や介護費用に対する不安がうかがわれる。

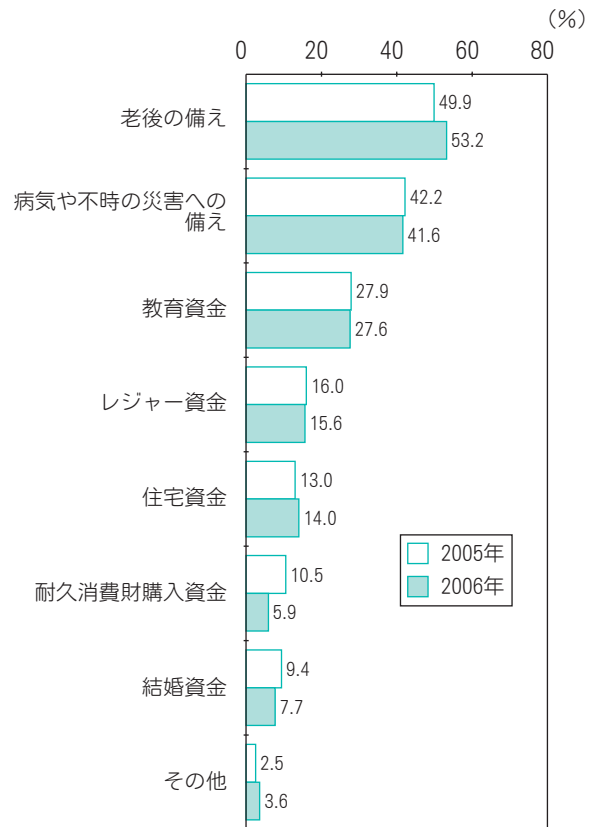
年代別貯蓄の目的の上位2項目

	第1位	第2位
29歳以下	教育資金 (52.6%)	住宅資金 (47.4%)
30代	教育資金 (52.2%)	住宅資金 (33.6%)
40代	教育資金 (59.9%)	老後の備え (42.3%)
50代	老後の備え (64.1%)	不時の備え (45.3%)
60歳以上	老後の備え (67.8%)	不時の備え (53.5%)

今後1年間の貯蓄DI



貯蓄の目的（複数回答）



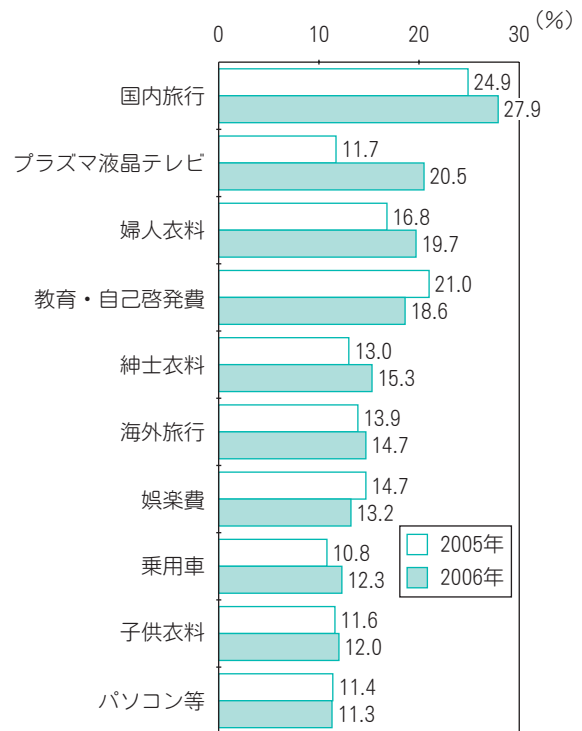
5. 今後の主な購入予定商品（複数回答）

購入予定商品で最も多いのは「国内旅行」（27.9%）、続いて「プラズマ・液晶テレビ」（20.5%）、「婦人衣料」（19.7%）の順となった。前回2位の「教育・自己啓発費」は2.4ポイント低下した。一方前回よりも、購入予定者が増えた品目は「プラズマ・液晶テレビ」（8.8ポイント増）、「国内旅行」（3.0ポイント増）、「婦人衣料」（2.9ポイント増）、「紳士衣料」（2.3ポイント増）などであった。特に「プラズマ・液晶テレビ」は前回の7位から5ランクアップした。

年代別に消費の特徴を見てみると、29歳以下は「娯楽費」が最も多かった。30代、50代、60歳以上はともに「国内旅行」が多かった。40代は「教育・自己啓発費」が4割以上を占めた。

既婚・独身別では、既婚者は「国内旅行」が各年代とも多く、独身者は「婦人衣料」が多かった。「婦人衣料」を選んだ独身者の中でも、特に中高年者の購入割合が高く60歳以上（33.3%）、40代（25.0%）であった。

今後の主な購入予定商品
（上位10品目；複数回答）



購入予定商品（複数回答）

購入予定商品		合計	年 代 別					既婚、独身別	
			29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	既 婚	独 身
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	7.7	15.8	5.3	7.3	7.7	8.9	8.3	4.5
	テレビ	6.9	15.8	4.4	6.6	7.2	7.4	7.4	4.5
	プラズマ・液晶テレビ	20.5	5.3	21.2	17.5	24.3	22.3	21.8	12.5
	DVDレコーダー	4.3	0.0	4.4	5.1	6.1	3.5	4.6	4.5
	パソコン・周辺機器	11.3	15.8	8.8	14.6	12.2	9.4	10.8	12.5
	デジタルカメラ・ビデオカメラ	4.3	21.1	1.8	3.6	3.9	5.9	4.0	6.8
	食器洗い乾燥機	2.6	0.0	3.5	2.2	2.8	3.0	2.7	0.0
	乗用車	12.3	15.8	11.5	17.5	13.8	8.4	11.4	21.6
衣料品・サバイブス	靴・ハンドバッグ	7.2	15.8	9.7	8.0	6.6	4.5	5.9	17.0
	紳士物衣料	15.3	21.1	19.5	21.9	13.3	10.9	17.3	11.4
	婦人物衣料	19.7	26.3	19.5	26.3	19.3	15.3	19.9	23.9
	子供用衣料	12.0	15.8	22.1	26.3	6.6	2.5	14.0	4.5
	家具・インテリア用品	8.9	21.1	8.8	9.5	11.6	4.5	7.8	15.9
	スポーツ・レジャー用品	4.9	0.0	2.7	5.1	7.2	5.0	4.4	9.1
	国内旅行	27.9	15.8	29.2	21.2	28.2	34.7	29.6	21.6
	海外旅行	14.7	10.5	13.3	8.8	15.5	19.8	14.6	17.0
その他	教育・自己啓発費	18.6	15.8	19.5	40.9	17.1	7.9	22.0	10.2
	娯楽費	13.2	31.6	8.8	12.4	16.6	11.9	13.5	14.8
その他	5.7	0.0	6.2	2.9	7.2	5.0	5.3	5.7	

6. 消費行動

買い物などの消費行動DIの変化について見てみる。

「同じ商品なら、少しでも安い店で買う」(66.4)が前年と同様に高い比率を占めているが、その割合は3.8ポイント低下し、過去5年間で最も低い割合となった。ほとんどの年代で消費DIが低下するなかで、40代だけが「少しでも安い店で買う」に「はい」と答えた割合が8割を超え、DIも前回より4.1ポイント上昇した。

「価格よりも、品質を重視して買う」(41.9)と答えた割合は前回より3.8ポイント低下した。

前回までは、DIが3年続けて少しずつ上昇していたが今回は最も低い割合となった。

年代別では、60歳以上のDIが62.4と突出している。ついで50代が43.7であるが、それより若い年代は20前後の数値となっており、20ポイント以上の大きな開きとなっている。

「壊れてもすぐに買い替えず、修理・修繕して使う」(34.5)のDIは前回より8ポイント低下した。

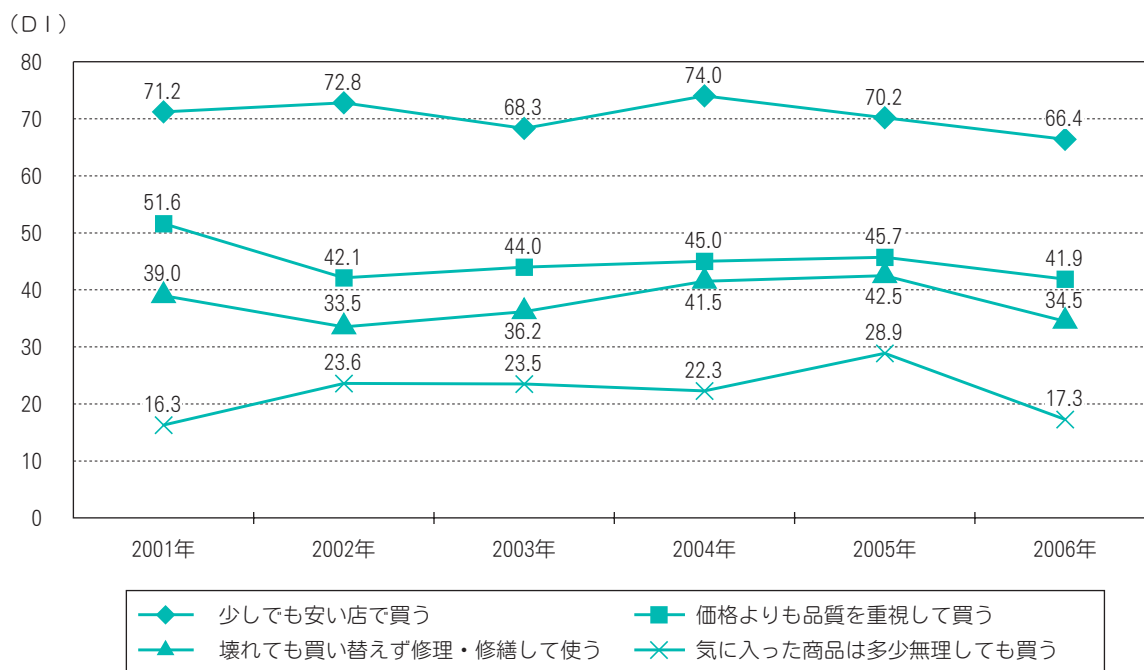
年代別では、30代以下の若い年代のDIが低かった。(29歳以下15.7、30代4.4)

一方、60歳以上は56.4、50代は34.8、40代は37.2であった。今回の調査で目立ったのは、30代のDIが前回の24.4から20ポイント低下して4.4と他の年代と比較しても、かなり低いことであった。

「気に入った商品は、多少無理しても買う」(17.3)のDIは前回より11.6ポイント低下した。

40代(13.9)では前回よりも22.3ポイント低下と大きく下がった。50代(14.4)は13.8ポイント低下、60歳以上(22.3)は14.4ポイント低下した。一方、DIが上昇したのは30代(21.2)のみで3.4ポイント上昇した。

消費行動DIの変化



7. 費目別サービス・レジャー支出

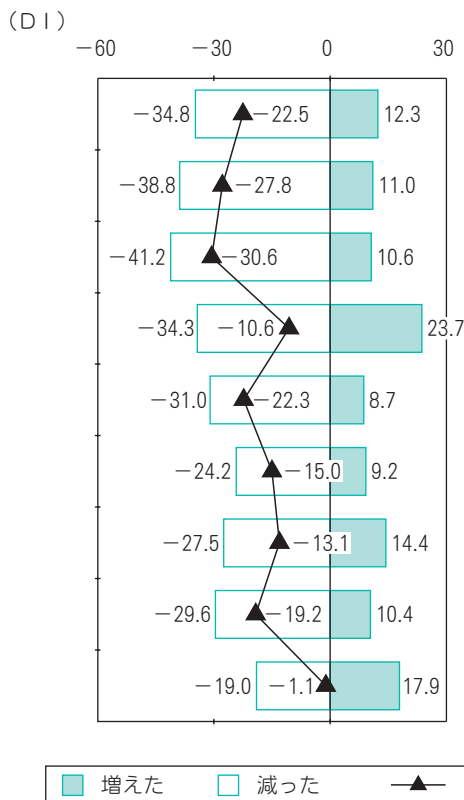
<現在>

1年前（2005年）と比べたサービス・レジャーに関する支出DIは、「補助教育費」（△1.1）が最も高い。続いて「外食費」（△10.6）、「教養娯楽費」（△13.1）となった。前回と比べて支出DIが改善しているのは「その他娯楽費」（4.1ポイント上昇）、「二泊以上の旅行」（1.3ポイント上昇）、「外食費」（1.0ポイント上昇）、「補助教育費」（0.5ポイント上昇）の4項目であった。「その他娯楽費」を最も多く増やしたのは30代（17.3ポイント上昇）、「二泊以上の旅行」を増やしたのは29歳以下（25.3ポイント上昇）であった。支出DIが低下した項目の中では、「日帰り旅行」（3.6ポイント減少）、「教養娯楽費用」（3.1ポイント減少）の減少割合が高かった。

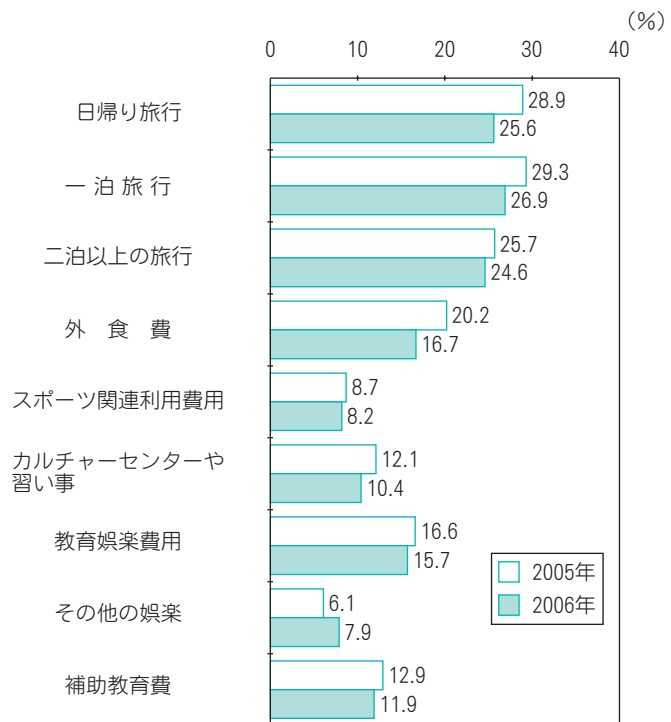
<今後1年間（2007年）>

今後1年間に、サービス・レジャー等の支出を考えているもの（複数回答）としては、「一泊旅行」（26.9%）、「日帰り旅行」（25.6%）、「二泊以上の旅行」（24.6%）となり、上位の項目は前回と同じであった。しかし、ほとんどの項目で前回よりもその割合は低下した。年代別に、今後最も増やそうと考えている項目を調べてみると、「一泊旅行」と答えたのは、30代（32.7%）、60歳以上（29.7%）、50代（28.7%）であった。「二泊以上の旅行」は29歳以下（36.8%）、「補助教育費」は40代（29.2%）という結果になった。50代や60歳以上では「日帰り旅行」や「二泊以上の旅行」の割合も「一泊旅行」とほぼ同じ水準になっており、旅行に費やすお金が多くなる予想になっている。

1年前と比べた支出



今後1年間の支出予想



8. 買い物・レジャー支出の減少理由（複数回答）

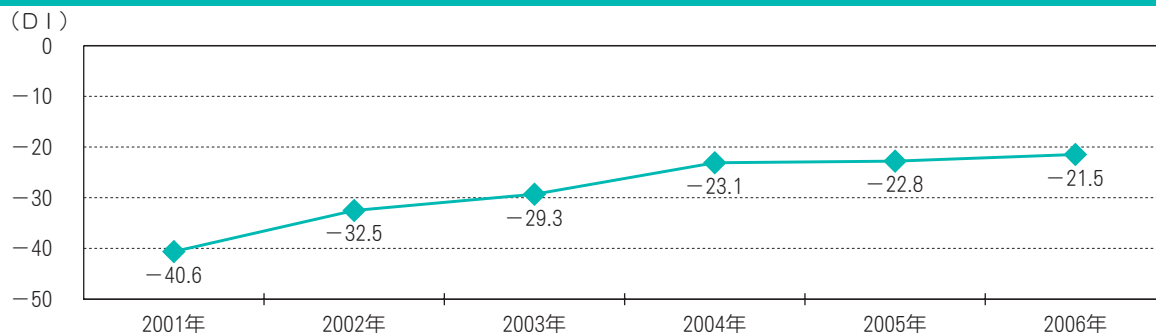
今後の買い物やレジャー支出について「増やす」と答えたのは110人（15.7%）、「減らす」は260人（37.2%）、「考えていない」302人（43.2%）となり、支出DIは△21.5と前回より1.3ポイント上昇した。

「減らす」と答えた260人を対象に、その理由をたずねた結果、「世帯の収入が減った」（41.5%）が最も多くなった。前回よりも増えている項目は、「医療費・税の負担増」（11.2ポイント増加）と「給与減額・失業などの先行き不安」（7.5ポイント増加）「老後の生活不安」（4.0ポイント増加）。逆に減少したのは、「預貯金の受取利息減少」（5.0ポイント減少）「消費意欲減退」（2.9ポイント減少）であった。

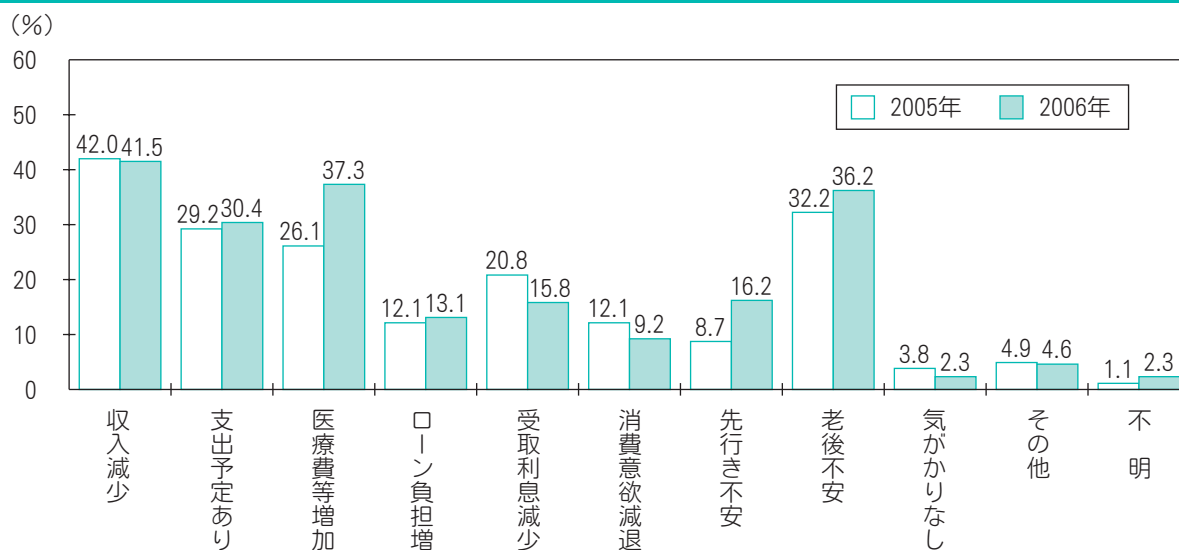
「支出を減らす理由」について、項目別に各年代の特徴を見ると、「世帯の収入が減った」は60歳以上（53.7%）と50代（47.5%）が多く、そのほかの年代は28～33%台でその差は大きかった。「医療費・税の負担増」は60歳以上（51.2%）が特に多かった。30代は前回が17.2%であったのが今回は37.8%と20ポイント以上上昇した。「老後の生活不安」は前回同様60歳以上（58.5%）、50代（41.0%）で多く、その割合はどちらも前回より10ポイント上昇した。一方減少した項目の「預貯金の受取利息減少」は、29歳以下と50代が前回よりも10ポイント少なくなった。

（奥 桂子）

今後の買い物やレジャーへの支出DI



支出を減らす理由（複数回答）



Research

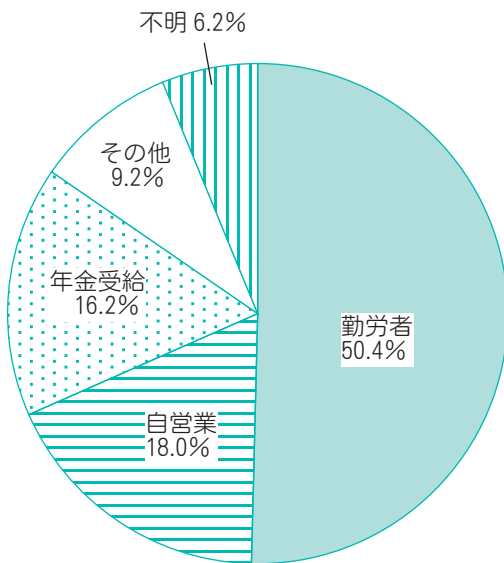
【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 23 家店
 本店営業部、西大寺、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、天理、桜井、榛原、
 大淀、高田、香芝、新庄、御所、橿原、神宮前、王寺、西大和、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2006 年 10 月 4 日
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 700 人
 うち有効回答者数 699 人
 有効回答率 99.8 %
- (5) 調査対象者の属性

(上段：人、下段：構成比 %)

年 齢	29歳以下	30 代	40 代	50 代	60歳以上	不 明	合 計
独身男性	2 5.6	9 25.0	2 5.6	9 25.0	10 27.8	4 11.0	36 100.0
独身女性	4 7.7	6 11.5	6 11.5	14 26.9	20 38.5	2 3.9	52 100.0
既婚男性	3 1.9	27 17.1	26 16.5	37 23.4	61 38.6	4 2.5	158 100.0
既婚女性	7 1.9	62 17.2	99 27.5	106 29.4	80 22.2	6 1.8	360 100.0
不 明	3 3.2	9 9.6	4 4.3	15 16.1	31 33.4	31 33.4	93 100.0
合 計	19 2.7	113 16.2	137 19.6	181 25.9	202 28.9	47 6.7	699 100.0

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

